

中学校体づくり運動 多様な動きの出現について

—器械・器具，用具から導かれる動き—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）

勝俣 優那

本研究は、保健体育の課題解決学習を問題とし、生徒が自ら課題発見・課題解決する授業の在り方を、実践を通じて考えた。そのために、アフォーダンスの考え方を参考に、動きを導く条件として、器械・器具、用具を用いた保健体育の授業を実践した。

器械・器具、用具では、①跳び箱を設置、②跳び箱の上にマットを被せたもの、③跳び箱の3・4段目を置いたもの、④マットの下にロイター板を置いたもの、⑤マットを斜めに設置、⑥ロールマット大2個、小3個設置、⑦スポンジマットの設置、⑧支柱にゴム紐を複数交差したもの、⑨スポンジや新聞紙によるレールの設置、⑩フラフープを立てて設置、⑪フラフープを自由に持てるように置いたもの、⑫スポンジを自由に持てるように置いたもの、⑬バランスボールを自由に持てるように置いたもの、⑭段ボールを輪状につなげたもの、14の場をサーキット形式で回る。

その結果、出現した動きの中で61種類を取り上げ、その条件には、器械・器具、用具の大小・形状・軽重・配置・個数・太さ・細さ・柔らかさ・傾斜・摩擦・空間・広さ・安定-不安定・固定・反発などが認められた。

これらの条件が影響し、生徒自ら課題発見・課題解決する保健体育の実践が成立した。